

実践のまとめ（第5学年 社会科）

令和3年10月13日（水）第6校時

指導者 燕市立吉田小学校

教諭 矢部 涼太

1 研究テーマ

他者との意見交流を通して、日本の将来について考えることができる児童の育成

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

新学習指導要領（平成29年3月告示）では、5学年において、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い、我が国の将来を担う国民としての自覚を養うことが求められている。自学級では教科書の内容の理解や資料を読み取る技能は高いが、それを生かして、自分の考えをまとめたり、説明したりする力が乏しい。そこで、知識や技能の習得だけにとどまらず、習得した知識の中から自分ができることを考え、説明できる力を育てていく必要があると考えた。具体的には、日本の諸課題について学習し、その学習の後で、解決策について自ら考え、表現する中で、自身が我が国の将来を担う国民であるという自覚をもたせたい。その中で、自分の意見だけでなく他者の意見も取り入れて、広い視野で日本の将来について考える力を育成していく。

(2) 研究テーマに迫るために

① 自分が考えた解決策について、プレゼンテーションする活動

児童が我が国の将来を担う国民としての自覚を養うためには、自らが日本の諸課題について考え、それに対する解決策の提案を行う必要があると考えた。

そこで、単元の学習のまとめとして「自分が問題だと思った点」、「提案する解決策」、「その提案によって今後日本はどうなるのか」の三つの柱で自分の考えをまとめ、発表する活動に取り組みさせる。また、まとめる際にプレゼンテーションソフトを活用して、上記の3つの考えが他者に伝わるようにスライド3ページに短く分かりやすくまとめさせる。

② 他者の提案について意見交流する活動

発表は、「ワールドカフェ方式」とし、多くの人の意見交流ができる形で行う。具体的な方法として、各班をA・B・C・Dに分け、発表者は1回ずつ順番に発表する。発表していない3人は、別の班の発表を聞きに行く。発表を聞きに行く際に、どんな提案だったかについてメモを取りながら、しっかりと聞いてくる。その後、4人の発表が終わったところで自分の班に戻り、他の班で聞いてきたことを共有する。

このような活動を通して、自分の意見だけでなく他者の意見も取り入れて、広い視野で日本の将来について考える力を養っていくことができると考える。

(3) 研究テーマに関わる評価

次の2つの観点から評価を行う。

① 自分の考えた解決策について自信を持って発表し、日本の将来について考えることができたとして評価する児童が80%以上になる。（発表の様子、授業の振り返り）

② 自分の意見だけでなく、他者の意見も取り入れて考えることができた児童が80%以上になる。（授業の振り返り）

3 単元と指導計画

(1) 単元名

自動車生産にはげむ人々 (小学社会 5年 教育出版)

(2) 単元の目標

- ・自動車生産の仕組みや工夫、努力について理解することができる。(知識・技能)
- ・自動車づくりの諸課題について捉えることができる。(思考力・判断力・表現力)
- ・諸課題に対しての解決策について、自分の考えを提案し、他者の意見も取り入れて、考えを深めることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

(3) 評価規準

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう工夫や努力をして、生産を支えていることを理解している。	製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、自動車生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現している。	学習したことをもとにこれからの自動車生産の発展について主体的に追究しようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画 (全 11 時間、本時 10/11 時間)

	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な種類の工業製品に囲まれて暮らしていること。 ・工業製品の改良や、新たな開発により暮らしが便利になってきたこと。 	◎私たちの身の回りには、どのような工業製品があるのか話し合う。	知・技 生活の中で様々な工業製品が使われていることや、改良されてきた工業製品によって生活が向上してきたことを捉えている。【発言・ノート】
2 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車の性能は向上してきている。また、昔よりも大量に生産できるようになっていること。 ・工場は、広い土地に建てられていること、生産には多くの人とロボットが携わっていることなどを知ること。 ・工場では様々な種類の自動車を同じラインで大量に生産していること。多くの人たちとロボットとの分業によって効率的に進められていること。 ・自動車工場では、ミスを防ぎ、効率よく生産を保つために、様々な工夫や努力をしていること。 ・多くの関連工場から正確に部品が届くジャスト・イン・タイム方式が、自動車工場の効率 	◎日本の自動車生産はどのように変わってきたのか話し合う。 ◎自動車の生産工場はどのようなところなのか調べる。 ◎自動車はどのような流れで生産されるのか調べる。 ◎自動車の生産工場にはどのような工夫があるのか考える。 ◎自動車の部品はどこから届けられるのか調べる。	思・判・表 自動車の車体や性能、生産の様子の変化について資料から読み取り、まとめることができる。【発言・ノート】 態度 自動車生産について、不明な点や疑問点を整理して、主体的に追究しようとしている。【ノート】 知・技 自動車生産は、品質を大事にしつつ効率的に進められていることを理解している。【発言・ノート】 知・技 大量生産を進めるうえで必要な工夫や、取り組みについて、複数の資料からの確に読み取っている。【発言・ノート】 知・技 自動車生産を支える関連工場の役割や、関連工場と自動車工場との結びつきについて理

	<p>的な生産を支えていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確に運ぶ工夫や努力、様々な輸送手段のはたらきに支えられ、新車が各地に届けられていること。工場は、資材や製品を船やキャリアカーで運びやすい立地にあること。 	<p>◎生産された自動車はどのように出荷されるのか調べる。</p>	<p>解している。【発言・ノート】</p> <p>知・技自動車は、様々な輸送手段やそれに携わる人たちの工夫や努力があること、輸送しやすい場所に工場が立地していることを資料からの確に読み取っている。【発言・ノート】</p>
3 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車生産について「地球温暖化」、「化石燃料の枯渇」、「EVの乗り遅れ」、「国内の自動車新車販売数の低下」などの諸問題を抱えていること。 ・消費者のニーズや自動車生産が抱えている諸課題についての解決策を自分なりに考え、どんな車を作ったらよいか提案すること。 ・自動車会社はニーズに応えるだけでなく、環境への配慮や誰でも使える車、自動運転の開発なども進めていること。 	<p>◎日本の自動車生産は、今、どのような問題を抱えているのか話し合う。</p> <p>◎今後、どのような自動車を作っていたらよいか考える。</p> <p>◎今後の自動車生産について他の人は、どのような考えをもっているか話し合う。(本時)</p> <p>◎今の自動車づくりには、どのようなことが求められているのか話し合う。</p>	<p>知・技自動車生産に我が国が抱えている諸問題について、複数の資料からの確に読み取っている。【発言・ノート】</p> <p>態度自動車生産の抱える諸問題についての解決策を主体的に追究しようとしている。【スライド】</p> <p>思・判・表自分の提案について、文字やイラストを示しながら、分かりやすく表現している。【発表・スライド】</p> <p>知・技多様な人々のニーズや社会の動向を反映した生産が進められていることを捉えている。【発言・ノート】</p>

4 単元と児童

(1) 単元について

本単元は、自動車生産の仕組みや工夫、努力について理解し、自動車生産についてのさまざまな諸課題に対する解決策について、自分の考えを提案して他者に発表したり、他者の意見を聞いたりして、自分の考えを深めていく学習活動を行う。

このような学習活動を通して、我が国の自動車生産について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願う我が国の将来を担う国民としての自覚を養っていく。

(2) 児童の実態 男子 18 人、女子 14 人、計 32 人（内特別支援学級児童 4 人）

1 学期は社会科単元テストの達成率が 80%以上の児童が 82%であり、社会科を得意とする児童が多いが、普段の授業の様子や Q-U アンケートの結果を見ると学習に対し、自信を持ってない児童が多数いる。具体的には、積極的に発言する児童が少数であり、人前で発表する際の声が小さい児童が多い。特に、答えがはっきりせず、自分の考えを発表するような時は顕著である。

そのため、1 学期は隣の人やグループの人に自分の考えを発表したり、クラス全体の前で発表したりする活動をさまざまな教科で少しずつ取り入れてきた。本研修においても、自分の考えを発表する機会を設定し、経験を積ませることによって、学習に自信が持てる児童を増やしていきたい。

5 本時の展開

(1) ねらい

- ・自分の提案について、作成した資料をもとに分かりやすく発表することができる。
(思考力・判断力・表現力)
- ・他者の意見を聞き、他者の考えを認めたり、自分の考えを深めたりしようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 展開の構想

本時では、前時までに作成したタブレット端末上の資料をもとに、自分の考えを発表する。ワールドカフェ方式で発表は1人3回聞きに行くことになるが、それぞれの発表を聞き流さないように、最後に自分の班で聞いてきたことを共有する時間を設定する。そして、内容や自分の考えを整理できるように「発表メモシート」を使いながら発表を聞くようにする。また、質問や意見があればどんどん発表するように促し、活発な意見交流となるようにしたい。そのような活動を通して、自分の意見だけでなく他者の意見も取り入れて、広い視野で考える力を養っていく。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け 予想される児童の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
5分	○前時までの学習内容の復習	・前時までの内容について発問し、児童はそれに答える。	○提示機に表示して、視覚的に捉えられるようにする。
35分	○本時の目標・学習の流れの確認 ○自分の班で発表の練習 ○他の班へ発表・意見交流 ○自分の班で意見交流	◎今後の自動車生産について他の人は、どのような考えをもっているのだろうか。 ・グループでお互いの発表の仕方について確認し合う。 ・発表の順番を決める。 ・発表をする。 ・他の班の発表を聞き、内容についてメモをとる。 ・メモをもとに他の班で聞いてきたことについて意見交換する。	◇Chromebookはあらかじめ起動しておく。 思・判・表 自分の提案について、文字やイラストを示しながら、分かりやすく表現し、発表している。【発表・スライド】 態度 他者の意見を聞き入れ、自動車生産の抱える諸問題についての解決策を主体的に追究しようとしている。【発表・振り返り】
5分	○振り返り	・振り返りを記入 ・自己評価	○自分と他者の発表の2点から振り返るよう声をかける。

(4) 評価

- ・自分の提案について、作成した資料をもとに分かりやすく発表することができたか。
(思考力・判断力・表現力)
- ・他者の意見を聞き、他者の考えを認めたり、自分の考えを深めたりしようとしたか。
(主体的に学習に取り組む態度)

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際（指導の実際）

① 身の回りにはどんな工業製品があるのかを捉える活動（第1次）

単元のはじめに、身の回りにはどのような工業製品があるのかを問うと、自動車や家電製品などの機械を中心に児童は答えた。しかし、教科書のイラストをみると、機械だけでなく、衣類や食品なども工業製品であることに気づき、ノート1ページ分を使うほどの工業製品名を書き出す児童も多くいた。その後、燕市の「TWINBIRD」や「THERMOS」の製品を紹介したり、県内の「亀田製菓」や「CORONA」の製品を紹介したりすると、「新潟県で作っていたのか。」と県内でもたくさんの工業製品を作っていることに気づくことができた。

② 自動車生産について知り、日本の抱えている諸課題から解決策を考える活動（第2～3次）

自動車の生産について、工場へ実際に見学に行けなかったため、写真や動画の資料を提示したり、Web上のバーチャル工場見学を活用したりしながら、児童がイメージをもてるよう工夫しながら授業を展開した。

また、日本の抱えている諸課題について、「地球温暖化」、「化石の燃料の枯渇」、「EV生産の乗り遅れ」、「販売台数の減少」を取り上げた。さらに、学級でどのような自動車が欲しいかのアンケートを採り、学級のニーズと諸課題の両方の視点から、どのような自動車を開発したらよいかを考え、提案書をまとめた。児童が考えた自動車は、環境負荷が少ない自動車が63%、安全性能の高い自動車が33%、快適性などその他が4%であった。

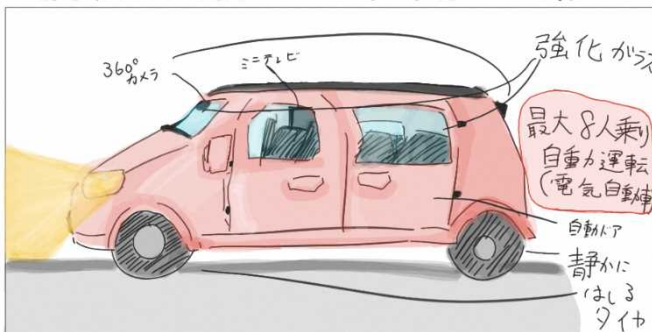
③ 自分の提案について説明する学習活動（第3次）

まず、説明する活動について、日本の自動車生産の諸課題や学級のニーズから「どんな車を作っていないとしないか」、「構想（設計図）」、「考えた車でどんな問題が解決できるか。」の3枚のスライドを作成し、それをもとに説明をした。（図1）

本時の他の人の説明を聞く活動では、後で振り返ることができるよう、聞き取りメモシートを持たせ、発表の内容や考えたことを書けるようにした。発表を聞きながら、しっかりとメモをとることができた児童が96%であった。

その後、直接聞けなかった発表については、「Gsuite」の特性を生かして、スライドを学級全員で共有し、読み合う活動を行った。「水素は環境にいいのだろうか。水素は何からできるのか調べてみようと思った。」と次の学習に向けての意欲的な感想も見られ、次の時間に「燃料電池車」について触れて学習をすることができた。

2. 構想(図や文で開発してみたい車を表現しましょう。)



3. 開発した車によって、どんな問題が解決できますか。

私の開発する車は、色々な機能(360°カメラ、自動運転など...)がついているので販売数の低下の問題が解決できます。あと、エアコンやミニテレビがついているので少しくらいなら生活することができます。それに荷台が大きめなので買い物や、キャンプで活かすことができます。安全機能もたくさんあるので事故も起きにくいです。

図1

(2) 研究テーマに関わって

研究テーマに関する評価結果は次の通りである（表1）。

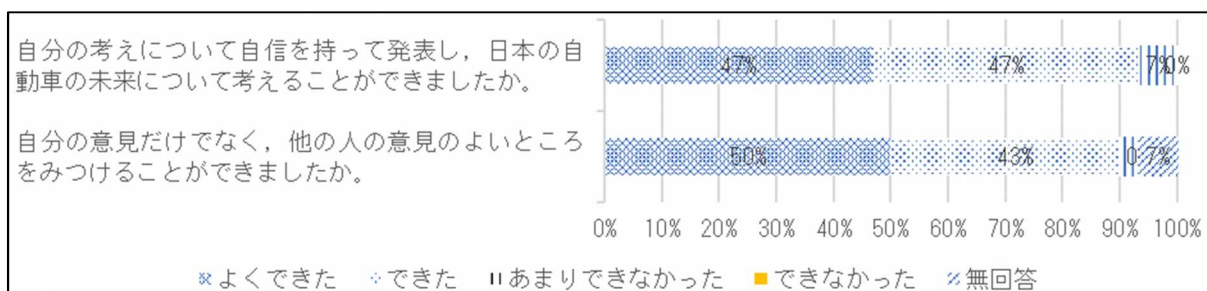


表 1

- ① 「自分の考えについて自信を持って発表し、日本の自動車の未来について考えることができたか」では、肯定的な評価が 94%、否定的な評価が 7%であった。評価の集計と振り返りの記述からも、ほとんどの児童が自信を持って自分の考えを発表できたことが分かる。「日本の自動車の未来について考えることができたか」については、児童が考えた自動車は、環境負荷が少ない自動車が 63%、安全性能の高い自動車が 33%、快適性などその他が 4%であり、ほとんどの児童が日本の諸課題を意識し、今後の日本がよりよくなるような自動車を意識して提案している。これは、單元ごとに継続して今回と同じような発表の機会を設けたことや日本の諸課題にテーマを限定したことによる成果であると考えられる。
- ② 「自分の意見だけでなく、他の人の意見のよいところをみつけることができたか」では、肯定的な評価が 93%、無回答が 7%であった。また、振り返りの記述からは他の人の考えの良さに過半数が触れていた。これは、話し合いの最後に自分の班に戻ってきて共有するというワールドカフェ方式の特性から、他の人の発表をただ聞き流すのではなく、最後に共有できるようにしっかりと聞いてこようという意識がもてたのだろうと考える。

(3) 今後の課題

① 取り上げた課題について

今回、日本が抱えている自動車生産の課題として取り上げたものが、「地球温暖化」、「化石の燃料の枯渇」、「EV 生産の乗り遅れ」、「販売台数の減少」であった。そのため、児童の思考は、環境に配慮した自動車の生産に偏ってしまった。「環境面」だけでなく、「安全」、「価格」、「利便性」、「高齢化社会」、「バリアフリー」など幅広く取り上げたり、「SDGs」とも関連付けたりし、多角的な視点で考えさせていきたい。

② 話し合いの仕方について

本時では、話し合いの方法として、自分の班以外の発表を聞きに行き、自分の班で共有するワールドカフェ方式で行った。自分の興味のある発表を聞きに行くことはできたが、聞きに行った発表のテーマが同じような内容になるということもあり、学習の深まりが見られない児童も中にはいた。

今後、話し合いの仕方として、例えば、テーマが同じ児童の間で考えを共有したり、テーマが異なる児童でグループを編成し、話し合いを行わせたりするなど工夫をし、質問や意見が飛び交い、児童の考えが深まるような話し合いにしていきたい。

<参考・引用文献>

- ・文部科学省 (2017) .『小学校学習指導要領解説 社会科編』日本文教出版
- ・小川亨 (2020) .『できる Google for Education コンプリットガイド』株式会社インプレス
- ・上島響 (2020) .『ワールドカフェ形式の話し合いとハンドサインを用いた相互指名で学び合いを深め、思考力を伸ばす』ベネッセ総合教育研究所
<https://berd.benesse.jp/special/manabucolumn/classmake17.php> (参照 2021.7.30)